

カラダもココロも健康に

いきいきらifu

no.93
2026.AUTUMN

徳大病院だより

特集

アトピー性皮膚炎について

■CLOSE UP

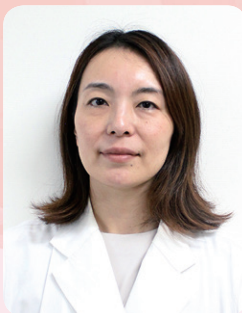
総合アレルギーセンターについて

■徳大病院ニュース

- ・令和8年熊本地震の被災地へ
DMAT（災害派遣医療チーム）を派遣しました
- ・「健康ハートの日2026」ライトアップと
市民公開講座を開催しました

■tokudai-staff information

アトピー性皮膚炎について



■説明は
徳島大学病院
皮膚科 講師
仁木 真理子
(にき まりこ)

かゆみや湿疹が良くなったり悪くなったりを繰り返すアトピー性皮膚炎。今回はその治療法などについて、皮膚科の仁木先生にお話を伺いました。

アトピー性皮膚炎とは

皮膚の表面には、アレルゲンや細菌などの異物の侵入を防ぎ、体内の水分が失われるのを防ぐ「バリア機能」があります。アトピー性皮膚炎は主に乾燥などによるバリア機能の低下、アレルギーによる炎症、かゆみという3つの要素が互いに影響し合い、悪循環に陥ることで発症・悪化すると考えられています。また、アトピー素因と呼ばれるアレルギー反応を起こしやすい体質も発症に関わる要因の一つとされています。さらに、アトピー性皮膚炎は乳幼児期に始まることが多く「アトピーマーチ」の最初の症状となることがあります。アトピーマーチとはアトピー性皮膚炎の他に食物アレルギーや気管支ぜんそくなどのアレルギー疾患を次々と発症する現象のことです。またアトピー性皮膚炎の合併症として若年性の白内障や網膜剥離などの眼合併症を伴うこともあります。このような合併症の予防や症状の改善のためにも、早期から適切な治療とスキンケアを継続することが大切です。



患者さんへひとこと

アトピー性皮膚炎で悩んでいても、病院受診をためらったり、治療をあきらめている方もいるかと思いますが、新しい治療選択肢が広がっていますので、まずは近隣の皮膚科クリニックなどにご相談ください。

様々な治療方法

これまで完治が難しい病気と考えられてきましたが、近年様々な新しい治療薬が承認され、症状を良好にコントロールし治癒に近い状態を目指せるようになってきました。治療法は大きく分けて「外用薬」「内服薬」「注射療法」の3つがあり、症状や重症度に合わせて適切な治療の選択肢が広がってきました。基本的には正しいスキンケアを継続しつつステロイドなどの塗り薬でまずは症状を改善する治療を行い、症状が落ち着いた後は再発を防ぐための治療を続けながら良好な状態を維持します。塗り薬だけでは十分な効果が得られない場合には、医師と相談の上、内服薬や注射薬を用いて炎症やかゆみを抑える新しい治療法を検討します。

薬を塗る量

大人の手のひら2枚分の患部面積に対して**0.5g**の薬を塗るのが適量です。

<軟膏0.5gの目安>



<ローション0.5gの目安>



この面積に塗る量に相当



塗り薬
ステロイド外用薬
など

適切な用法・用量で外用することが重要。ステロイド以外の新しい外用薬もあります。



内服薬
JAK阻害剤
など

即効性があります。治療前には採血等の検査が必要ですが、適切な医師の管理のもとで使用します。



注射
生物学的製剤

炎症などを引き起こす原因物質をブロックする抗体製剤です。自己注射が可能です。適切な医師の管理のもとで使用します。

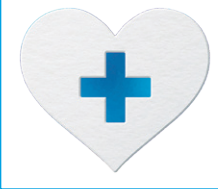
悪化を防ぐために

皮膚を清潔に保つことは、症状の悪化を防ぐために大切です。入浴後は保湿に加え、抗炎症外用薬などを用いたスキンケアを行いましょう。また、唾液や汗、髪の毛、衣類との摩擦など、皮膚への刺激をできるだけ避けることも重要です。

かゆみなどの症状が治まっても、皮膚の内部では炎症が続いていることがあります。アトピー性皮膚炎について正しく理解し、定期的に受診しながら治療やスキンケアを続けることで、症状の悪化を防ぐことができます。



CLOSE UP!



総合アレルギーセンターについて

総合アレルギーセンターは、アレルギー疾患の重症化の予防及び症状の軽減などを目的としたアレルギー対策基本法が制定されたことをきっかけに、令和2年4月に当院に設置されました。今回は、総合アレルギーセンターの取り組みについて紹介します。

● 総合アレルギーセンター

当センターは徳島県から指定を受けている「徳島県アレルギー疾患医療拠点病院」の中核組織として、県内のアレルギー診療の充実と人材育成を推進しています。アレルギー疾患は多岐にわたり、複数の診療科が関わるケースも少なくありません。

当センターでは、内科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科など複数の診療科医師に加え、看護部、薬剤部、栄養部とも連携し、患者さんの治療を総合的に支える体制を整えています。定期的な会議やカンファレンスを通じて情報共有を行い、診療科を超えた相談や紹介がしやすい環境づくりに努めています。また、新しい検査や治療に関する情報を共有することで、本院全体のアレルギー診療のレベル向上にも取り組んでいます。

● 本院の取り組み

当センターでは、院内外への教育・啓発活動を積極的に行っています。院内では年1回の研修会を開催し、進歩の早いアレルギー診療について最新の知識を共有しています。近年はバイオ製剤をはじめとした新しい治療法が次々と登場しているため、医療従事者の知識のアップデートは欠かせません。

また、アレルギー専門医の取得支援にも力を入れています。医師だけでなく多職種の医療従事者が取得できる「小児アレルギーエデュケーター(PAE)」や「アレルギー疾患療養指導士(CAI)」の資格取得も推進し、専門性の高い人材育成を進めています。

毎年開催している県民公開講座では、アレルギー医療に関する情報を広く発信し、正しい知識の普及、啓発に努めています。



総合アレルギーセンターの皆さん

■説明は センター長 北村 嘉章（きたむら よしあき）※前列中央

● 今後について

今後はこれまでの取り組みをさらに強化し、徳島県全体のアレルギー診療のレベルアップにつなげていきたいと考えています。特に、県民公開講座や医療従事者向け研修会を充実させ、より多くの方にアレルギー疾患への理解を深めていただくことが目標です。

徳島県小児アレルギー疾患対策研修会

参加費
無料

日時：令和8年12月18日(金) 13:30～15:30

場所：美馬市合同庁舎(美馬市脇町大字猪尻字建神社下南73番地)

対象：母子保健に携わる専門職(保健師、助産師、看護師、栄養士、薬剤師、保育士、調理担当者等)

内容：小児アレルギー疾患の発症予防と保健指導の実際を学ぶ研修会です。



患者さんへひとこと

アレルギー疾患は以前はステロイド治療が中心でしたが、現在では新しい治療薬が数多く登場し治療の選択肢が大きく広がっています。

アレルギー疾患について悩みや不安があれば、まずはかかりつけ医の先生に相談しましょう。当センターでも、関連する多くの診療科や専門スタッフが連携し一人ひとりの患者さんに合った診療を提供していますので、ぜひお気軽にご相談ください。



また、院内だけでなく県内の医療機関や関係職種との連携をさらに強化することでアレルギー診療に関心を持つ人材を増やし、専門医や認定資格取得の支援を継続していきます。

徳島県アレルギー疾患県民公開講座

参加費
無料

日時：令和9年2月21日(日) 11:00～12:20

場所：ふれあい健康館2階 第2会議室(徳島市沖浜東2丁目16番地)

開催方法：会場開催およびWeb配信によるハイブリッド開催

対象：県民の皆さま

内容：アレルギー疾患に関する正しい知識や最新の医療情報をお伝えする公開講座です。



徳大病院ニュース 徳島大学病院の最新情報をお届けします

TOKUDAI BYOUIN NEWS

令和8年熊本地震の被災地へDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣しました

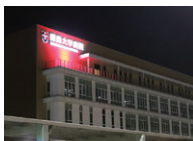
令和8年7月28日に発生した熊本地震の被災地へ、徳島大学病院よりDMAT(災害派遣医療チーム)(医師3名、看護師2名、診療放射線技師1名、臨床工学技士1名)が派遣されました。本院DMATは7月30日に本院を出発、翌31日より保健所や避難所の支援を行い、8月3日に帰院しました。

帰院後、DMATの各メンバーより被災地の現状などの報告を受け、西良病院長よりねぎらいの言葉がかけられました。



「健康ハートの日2026」ライトアップと市民公開講座を開催しました

徳島大学病院脳卒中・心臓病等総合支援センターでは、脳卒中や心臓病など循環器病予防の啓発を目的とした8月10日の「健康ハート」の日にあわせ、本院外来診療棟壁面をシンボルカラーである赤色にライトアップを行いました。また、8月11日には「健康ハートの日2026 市民公開講座で健康チェック体験」を開催し、多くの方にご参加いただきました。



栄養部
野村 和弘
(のむら かずひろ)

令和8年4月1日付で栄養部長を拝命いたしました。栄養は、病気の予防や治療、回復を支える医療の重要な柱です。当院では、患者さん一人ひとりの病状や生活に合わせて、医師、管理栄養士をはじめとする多職種が連携し、安全で質の高い栄養管理を提供しています。患者さんが安心して治療に専念し、一日も早く健やかな生活を取り戻せるよう、一人ひとりに寄り添った栄養支援に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

治験を実施しています

現在、開発中の医薬品あるいは医療機器、再生医療等製品の候補となるものをを用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して厚生労働省から「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、**お気軽にお問い合わせください。**

ご協力
お願いします。

- 肺がん ●卵巣がん ●統合失調症 ●成人T細胞白血病・リンパ腫
- 大腸がん ●金属パネアルレルゲン ●不妊症
- 尿路上皮がん ●原発性IgA腎症 ●脳梗塞
- 前立腺がん ●筋萎縮性側索硬化症 ●間質性肺疾患
- 悪性リンパ腫 ●家族性認知症 ●慢性炎症性脱髄性多発神経炎 (CIMP)
- 多発性骨髄腫 ●心房細動および心房粗動 ●加齢黄斑変性
- 急性骨髄性白血病 ●温式自己免疫性溶血性貧血 ●糖尿病黄斑浮腫

問合せ：
臨床研究推進部
tel.088-633-9294



徳島新聞 デジタル版

地域の話やできごと 国内外の重要ニュース

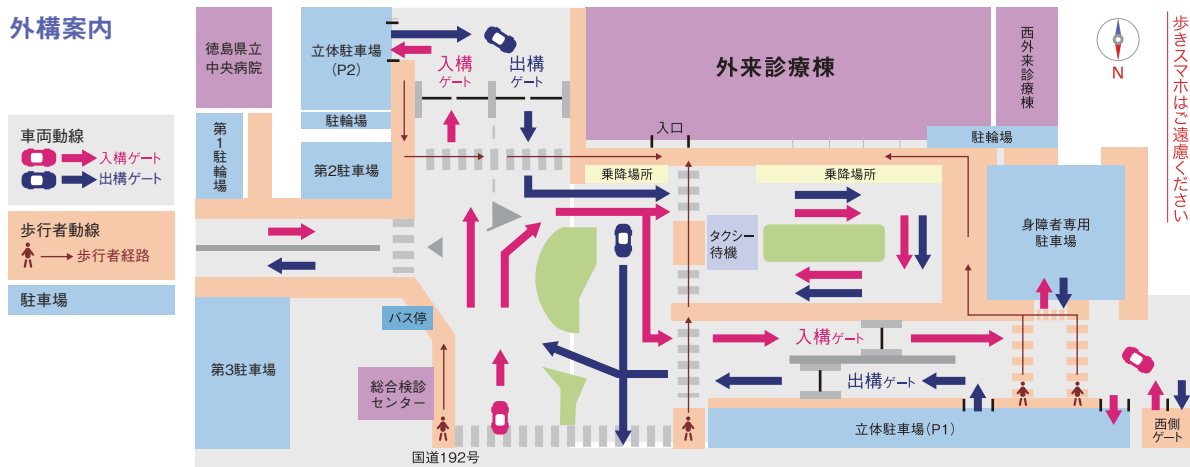
あなたの「知りたい」に、こたえる

単独ライトプラン 月額 **980円**



詳しくはこちら

外構案内



予約変更、予約キャンセル、予約確認

●AI電話

Tel.050-1722-0148 (7:00～20:00 (休診日除く))

各相談室・検査の連絡先

●難病・てんかん・高次脳機能障害など医療福祉相談

Tel.088-633-9107 (8:30～17:00 (休診日除く))

●がん相談

Tel.088-633-9438 (8:30～17:00 (休診日除く))

●緩和ケア相談

Tel.088-633-7457 (8:30～17:00 (休診日除く))

●肝疾患相談

Tel.088-633-9002 (8:30～17:00 (休診日除く))

●脳卒中・心臓病等に関するご相談

Tel.088-618-0171 (8:30～17:00 (休診日除く))

●遺伝カウンセリング

Tel.088-633-9218 (9:00～17:00 (休診日除く))

●セカンドオピニオン

Tel.088-633-9654 (9:00～17:00 (休診日除く))

徳島大学病院へのご寄付

本院では、一層充実した医療を提供するために、寄付金というかたちで皆様のご厚志を生かしていきたいと考えています。皆様のご支援は、①病院設備・サービスの充実②診療環境の充実③医療スタッフの育成④地域医療への貢献のために充てさせていただきます。ご寄付をいただき心から感謝いたします。

●寄付者のご芳名 ご同意いただいた方に限り、ここにご芳名を掲載させていただきます。

※2026/4/1～2026/7/31時点(順不同)

左海 義文様 花木 泰行様 芝 祐太様 岡 志保様 藤川 誠様

●お申し込み状況 総件数：9件 総額：1,850,000円

※2026/4/1～2026/7/31時点

●お申し込み方法 徳島大学病院のホームページでご覧いただけます。来院中のお申し込みは、経理調達課経理・管理係または、お近くの当院スタッフまで申し出ください。

●お問い合わせ 経理調達課経理・管理係
(月～金8:30～17:00) Tel.088-633-7016

 **徳島大学病院**
Tokushima University Hospital



〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1

■ご意見・ご要望は下記までお寄せください
bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp

発行者 病院長 西良 浩一
編集部長 石澤 啓介
広報委員会 川人 伸次 原田 雅史 後藤 正和 板東 美香
委員 藤井 志朗 久保 亜貴子 大川 敏永 桐野 靖
 武川 香織 戸崎 美鈴 兒玉 実和 斉藤 憲市
 武政 康平 井田 陽子 藤原 慶一 田木 真和
事務担当 総務課広報・企画係 Tel.088-633-7697